

令和七年度 横浜市退職小学校長会 俳句部会 ③

佛壇

龍
次
木

俳句往来 百十一号

十二月席句会作品集(令和七年十二月)

詠むときも読むときも、認め合い高め合う、花水木の仲間

- ・体躯にふさわしいリズム感
- ・春夏秋冬の五感に触れる季節感
- ・自身の心から湧き出る創出感
- ・日常に秘めている夢、ロマン、詩心、詩、情感
- ・喜怒哀楽に内在する笑い、おかしみ、たわむれ、俳諧味



トツチャカツチャクイ賃織機に母空つ風 チンバタ カカ

信子

この家族の住む地域は冬期特有の空つ風が激しく家をたたく。賃機ちんばたにいそしむ母（家庭内の女たち）は、そんな季節風をも機織はたおりの軽快なリズムに溶けこませて『トツチャカツチャクイトツチャカツチャクイ』と唄いながら稼ぎ出し、生計の足しにしたのだ。賃機が大流行した頃は村中からこの唄が聞こえたであろう。

機織にまつわる唄は地域によって異なるが、トントンキーとかギーギーバタンといった、擬声擬態のオノマトペで唄われる例が多い。

掲句は、父ちゃん母ちゃんをズバリ唄いこみ、家の主（かかあ天下と揶揄されつゝも）家族を盛り立てる女性を季語の空つ風に寄せて、陽気に唄う詩が特にいい。五七五の調子に世情の言葉の意味を詠いこむたくみの句だと思う。

花水木顧問 福田福郎

十二月句会の作品

左隣は選者(☆は自薦)

作者

朝顔が一息ついた今朝の風

英子

☆伴・鶯山・小坂・荒井

里山の栗のいがむく子らの声

定雄

高橋郁・月田・川口・伴

愛犬の玩具寂しや雲高し

鶯龍

伴

秋蝶の小影小影へ連れ立つて

一雄

相澤・鶯山・吉野

ビル群にぽつんと一人真白富士

美明

堀井・大石・小坂

京急の車窓かがやく蜜柑山

金雄

高橋郁・荒井・前橋

縁側に猫とじゃれ合う文化の日

福郎

桑原・月田

絵本の中は皆やさしい熊ばかり

信子

福田・荒井

古い楽し友の栗飯同期会

和子

相澤・高橋定・大石・川口・小坂

小春日や窓越し揺れる花ハツ手

佳一

☆堀井・野村・山本・小坂

振り下ろす鉤に声あり甘譜掘る

篤

中澤・野村・鷺山・吉野・宮澤・大石・福田・伴・前橋

一房のぶどうわけあい舌づみ

尚之

桑原

休耕田一鍬入れて稻たわわ

郁枝

☆高橋郁・高橋定・野村・川口

庭の虫ドアの音にも鳴き止まず

映夫

鷺山・堀井

友のハグやさしくつよく秋夕焼け

啓子

尼寺に今を盛んと彼岸花

淳子

桑原・月田・宮澤・大石・山本・小坂

蒲郡俊成卿も秋好日

正子

野村

名刹を山懷に紅葉晴

竹之

堀井・月田・宮澤・大石・小坂・荒井

「あいこでしょ」孫の下校の秋高く

誠

☆吉野・高橋定・中澤・福田・伴

今朝の風楽しむ間なき寒さかな

美明

桑原・山本・小坂

夏超えて熟れしゴーヤの種を取る

英子

相澤・高橋定・堀井

竹春の日矢の幾筋尼の庵

信子

桑原・高橋郁・野村・吉野・大石・福田・川口・前橋

大池の鳶の一羽の天高し

一雄

☆宮澤・高橋郁・大石

空壕にすすき茂りて城守る

郁枝

相澤・吉野・月田・大石

惚け出しの散歩順路や冬紅葉

福郎

☆福田・山本

赤とんぼ鷹取山越ゆる幾百千

金雄

野村

秋色の足尾銅山岩隠し

定雄

柿に熊ゐる吹き矢的中角館

誠

夕空の風にどどまる赤とんぼ

竹之

小さき秋スプンに盛りて病む母へ

和子

桑原・高橋定・中澤・堀井・月田・宮澤・大石・小坂・荒井

相澤・桑原・野村・鷺山・吉野・福田・山本・川口・伴・小坂・荒井・前橋

青空と銀杏黄葉が奥床し

山本

コンコンと椎の実落ちるトタン屋根

高橋郁・高橋定・鷺山・宮澤・小坂

白犬と歩きし浜に百合鷗

☆鷺山・野村・小坂

中高生も瞳に宿す紅葉なり

佳一
正子

松手入ボクにさせてと使ひの子

篤

虫の声鳴くのを止める寒さかな

映夫

☆小坂・相澤・堀井・山本・川口

鳴くことに努力するぞと虫時雨

尚之

天高し竹千代君のお隣に

啓子

立冬の空の広さの頼もしや

一雄

相澤・高橋郁・高橋定・中澤・川口・伴

孫の手に散歩に行こうとね、じやらし

英子

トツチヤ、カツチヤ、クイ賃織機ちんば
たに母か空かつ風

信子

☆中澤・月田・福田・前橋

犬去りて夕焼け早き散歩道

鷺龍

高橋郁・堀井・伴

わが庭の鈴なりのみかんおすそわけ

映夫

歩行器はわが分身よ小春風

竹之

手拍子や時に歓声一の酉

金雄

冬木立彼方に光る灯しあり

佳一

月が見る青い地球のガザ地区を

定雄

大相撲升席のなか和が育つ

尚之

☆高橋定・桑原・野村・月田・山本・川口・荒井

宮澤・伴・小坂

相澤・桑原・中澤・月田・福田・山本・川口・荒井・前橋

高橋郁・中澤・鷺山・吉野・宮澤・大石・福田・川口・小坂

鷺山・高橋定

幼子が落ち葉と遊ぶ傳通院

淳子

冬隣於大の方の墓所を訪ふ

啓子

富士山の裾野のすすき飛騨の屋根

郁枝

大根引き雲丹沢へ流れ行く

篤

桑原・中澤・鷺山・吉野・宮澤・前橋

柿一つそれはそれとし供えたり

正子

堀井・宮澤・福田

ちろろちろ薬師如来に静寂あり

誠

宮澤・山本・荒井

秋景色見たし触れたし熊怖し

美明

相澤・高橋定・野村・吉野・月田・伴

投薬を拒む眼虚ろ秋の蝉

和子

☆月田・吉野

吾が家にて熊と遭遇！有りそな

福郎

焼津港吹き寄せる風みかん山

郁枝

愛犬の小さき冬服簞笥へと

鷺龍

吉野・川口・伴

汗ひとつ西の空には星ひとつ

英子

齡重ね思い薄らぐ年の暮

美明

☆川口・堀井・吉野・宮澤・伴・前橋

鍬鎌研いで勤労感謝の日

篤

☆荒井・相澤・大石

大根する怒つてなんぞおりません

信子

高橋定・福田・大石・伴・荒井

孫笑顔小春日和と誕生日

正子

山本

秋深しこたつのふとん陽に当てる

映夫

福田

大空襲語る石塔落ち葉降る

淳子

☆相澤・桑原・高橋郁・高橋定・野村・鷺山・月田・川口・前橋

天空にオリオン探す遙かなり

尚之

☆山本・川口

独り居の友のメールと夜長かな

誠

高橋定・野村・鷺山・宮澤・福田・前橋

青海に真向い大根干されをり

福郎

相澤・桑原・高橋郁・中澤・月田・荒井・前橋

はらからか呼んでるやうな寒昴

金雄

☆大石・中澤・堀井・吉野・宮澤

寒暁の伽藍に響く二柏手

和子

相澤・山本

二重三重重なり合うや柿落ち葉

佳一

中澤・大石・荒井

鶏鳴に目覚むる十二月八日

竹之

☆前橋・鷺山・荒井

立冬や明日のケアハウス楽しみに

一雄

高橋郁・鷺山

十五夜の出逢う軌跡の二人かな

定雄

山本

緑なる小さきバッタの枕に来

啓子

高橋定・月田

編集談話室

◇令和七年度、俳句部の改革は続いています。俳句往来百一号では、グーグルフォーム、FAX等で寄せられた全員の俳句を一覧表にし、アトランダムに ABCD 群に分けて句会資料を作成。句会欠席の方には郵送して選句してもらいました。部員十九名（十一月三日の句会参加者七名）の句と選句者をまとめて句集にしました。手作業の頃とグーグルフォームの活用と、隔世の感があります。グーグル環境構築の鷺山、パソコン編集担当の高橋（郁）、野村の尽力で完成させることができる、「こんなに嬉しい」とはありません。ゆっくりお読みいただければ幸いです。

百十一号から参加の新部員は、送付状で紹介します。次年度からは、俳句講師等もお招きする機会を作り部員一同切磋琢磨し、よりよい俳句作りをしたいと思います。

（ 部長・高橋定雄 ）

◇次の句会は、三月の誌上発表となり、応募作品を表題

付きで、花水木百十二号に載せ発行します。

・季題は新年・春で四句。

・表題（タイトル）、作者名、俳句四句を楷書で記入。

投句された方の趣意を大切にするために、読み間違いのない字体（必要ならふりがな）で、よろしくお願ひします。

・締切日は、二月五日（木）必着でお願いします。

同封の投句用紙を活用、郵送、FAXでもどうぞ。

★スマホ、PCなどで、QRコードを読み取り、グーグルフォームで投稿する方も少しずつ増えています。慣れればその日に届きますので、お試しください。

発行 横浜市退職小学校長会俳句部

代表 高橋定雄

発行日 令和七年十二月吉日
編集・印刷 花水木百十一号担当幹事

